

2026
7/26(日)

四万十市事前復興まちづくり計画 第1回 下田地域ワークショップ

第1回 下田地域ワークショップを開催しました

令和8(2026)年7月26日(日)に第1回 下田地域ワークショップを開催しました。当日は、27名の方にご参加いただき、下田地域の復興まちづくりについて様々なご意見をいただきました。

ワークショップでは、「ご自宅の危険性を確認しよう」、「避難生活から復興までの住まいの場を想像してみよう」をテーマに、6班に分かれて意見を出し合いました。

ワークショップ

各班に分かれて、活発な意見交換を実施しました。



発表

検討した内容について、それぞれ発表していただきました。



避難生活から復興までの住まいの場を想像してみよう

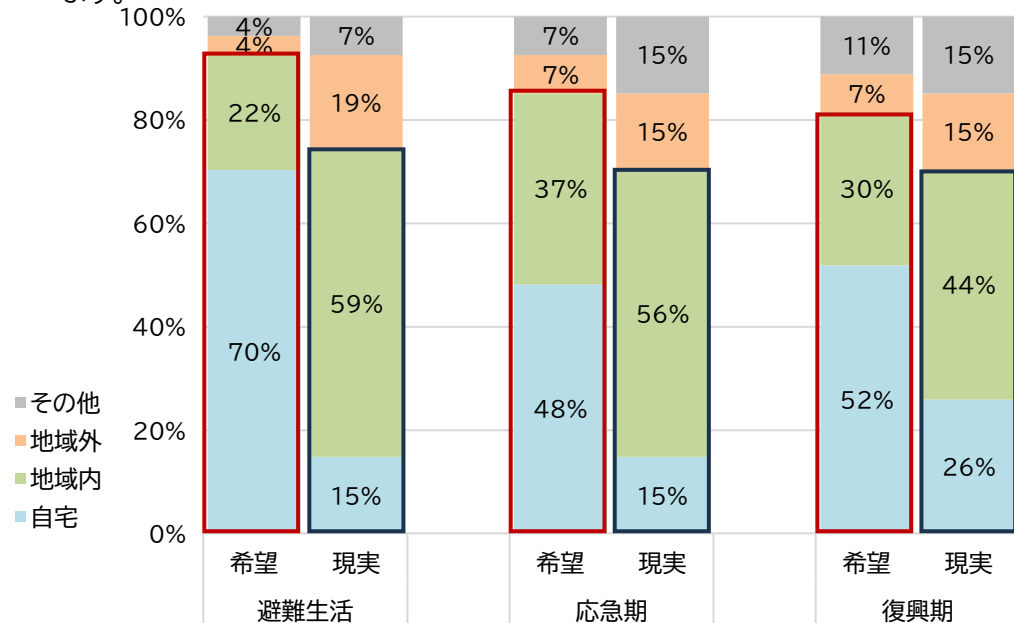
避難生活、応急期、復興期のそれぞれの段階での住まいの場について話し合いました。

避難生活から復興期では、地域内を希望する方が8割以上と高くなっています。しかし、地域内の大部分が津波浸水想定区域に位置していることから、現実では地域外を選択する方が多くいました。

避難生活は、自宅が浸水する可能性が高いことから、地域内の避難所を選択せざるを得ないとの意見が多くなっています。また、避難所での生活が長期となる場合、食料やトイレ問題などの懸念事項があげられました。

応急期では、地域内を希望する人が約8割と高くなっていますが、地域内で必要な数の応急仮設住宅を確保できるのか、また、現在のコミュニティを維持できるのかとの意見が出ました。

復興期では、資金面や年齢、コミュニティの維持等に関する意見が多くなっています。



第2回ワークショップは、2026年10月11日(日)を予定しています。
第1回目にご参加された方はもちろん、予定等により参加できなかった方もぜひご参加ください。
詳しくは、10月号区長文書にてお知らせさせていただきます。



お問合せ

四万十市役所 防災まちづくり課
TEL:0880-35-2044(直通)
〒787-8501 四万十市中村大橋通4丁目10

避難生活期



発災直後～10分
：避難

1～7日：
救助を待つ

～3カ月～半年：
避難所等で生活

～2年～5年：
仮設住宅等で生活

それ以降：
生活を立ち上げる

	生活をおくる場所	選んだ理由	心配なこと	心配事の解決に向けて必要なこと
避難生活	1. 自宅(倒壊等のおそれがない、速やかな修理が可能な場合)	自宅が安心 - 自宅が浸水想定区域外だから - 自宅はストレスがないため - 自宅を離れたくない - 家族と一緒にいたい - 住み慣れた自宅が好き！！	災害弱者 - 身体障がい者 - 後期高齢者 - 福祉避難所がない	
	2. 地域内	慣れ親しんだ地域 - 住み慣れている - 地域の人との関わりを大切にしたい - 顔見知りであり、安心でき、励ましあえる 自宅が被災の可能性 - 自宅の被災が想定されるため - 避難所以外に行けるところがないから	備蓄 - 食料 - 薬 避難所の設備 - ライフライン(水道や電気など)が使えなくなる - ペットを連れて行けるのか心配 - トイレ - 暑さ・寒さ - プライバシーの確保 - 避難所での長期間の生活は、耐えられない - 快適な生活ができるのか - 病気の心配 - 物資等が届くか - 他人と上手くやっていけるか心配 - 災害の規模被害の状況 - 広い土地が西南大規模公園以外にない	10日以上 の備蓄をする 快適に過ごせるように準備しておく ヘリポートの整備
	3. 市内(まちなか等)	- 浸水しない平地が少なく、地域内でまとまり避難できないため - 親せきの家があるから		
	4. 市外	- 被害想定が小さく、移動や買い物にも便利だから - 安全な場所に行きたい(場所は未定)		

■ 応急期



発災直後～10分
：避難

1～7日：
救助を待つ

～3ヵ月～半年：
避難所等で生活

～2年～5年：
仮設住宅等で生活

それ以降：
生活を立ち上げる

	生活をおくる場所	選んだ理由	心配なこと	心配事の解決に向けて必要なこと
応急期	1. 自宅(倒壊等のおそれがない、速やかな修理が可能な場合)	自宅が安心 - 自宅が浸水想定区域外だから - 自宅はストレスがないため - 住み慣れた自宅が好き！！	金銭面が心配	
	2. 地域内	慣れ親しんだ地域 - 住み慣れている - 地域の人との関わりを大切にしたい - 顔見知りであり、安心でき、励ましあえる - 地域コミュニティの中にいたいから 応急仮設住宅以外に行くところがないから	応急仮設住宅建設への不安 - 応急仮設住宅の整備に必要な期間 - 応急仮設住宅の整備に必要な資機材 - 応急仮設住宅を建設する場所を確保できるのか心配 - 必要数を確保できるのか心配 入居への不安 - コミュニティ単位で入居できるか心配 - どの程度の期間の入居となるのか心配 - 他人と上手くやっていけるのか心配 - 高齢者は、長期間は耐えられない	建設候補地を検討しておく 西南大規模公園に 応急仮設住宅を整備する
	3. 市内(まちなか等)	- 地域内には浸水しない平地が少ないため - 自宅と畑へのアクセスが良いため - 親戚の家があるから		
	4. 市外	- 人口が多く活気があるため、復旧が早いと考えられるため - 特に候補地はないが、安全な場所が良い		

復興期



発災直後～10分
：避難

1～7日：
救助を待つ

～3ヵ月～半年：
避難所等で生活

～2年～5年：
仮設住宅等で生活

それ以降：
生活を立ち上げる

	生活をおくる場所	選んだ理由	心配なこと	心配事の解決に向けて必要なこと
復興期	1. 自宅	自宅が安心 - 住み慣れた自宅が好き！！ - 自宅を離れたくない	- 自宅の再建をどうするか心配 - 被害がない場合でも、災害危険区域に指定されるかもしれない - 沿岸部に住み続けられるのか心配	
	2. 地域内(近隣含む)	地域コミュニティ - 顔見知りであり、安心でき、励ましあえる - 地域の人との関わりを大切にしたい 慣れ親しんだ地域 - 住み慣れている - 最終的には今の居住地に戻りたい - 愛着がある - 遠くに行きたくない 津波被害がない高台など安全な場所がよい	金銭面 - 金銭面(個人負担) - 借金した場合返済できるか心配 - 年齢 - 自宅の再建資金の確保ができるか心配 高台移転 - 高台の土地を確保できるのか心配 - 公共交通の確保(免許返納により、日常の足の確保が必要) - 仕事、畑を続けられるのか心配 - 地域ごとでまとまって移転出来るのか心配	公的資金 共助 事前復興の推進 - 今より良い暮らしの実現 - 今から考える
	3. 市内(まちなか等)	- 通院しやすいため - 移動や買い物をしやすく便利だから		
	4. 市外	- 災害リスクの低い親せきの家 - 安全な場所に行きたい(場所は未定)		